

改定のポイント

SBTi「企業ネットゼロ基準V2.0」に関する最新情報

2025年4月



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

Science Based Targets initiative (SBTi) は、企業のための気候変動対策組織であり、全世界の企業および金融機関が気候危機との闘いの中で各自の役割を果たせるよう支援している。

SBTiは、地球温暖化が壊滅的なレベルに達しないよう維持し、**2050年までにネットゼロを達成**するために必要な温室効果ガス(GHG)排出削減目標を企業が設定するための基準、ツール、ガイダンスを開発している。



SBTiのインパクト

SBTiの10年



本日の内容

1. 企業ネットゼロ基準V2.0
2. 改定案のポイント
3. 策定プロセスへの参加方法
4. 質疑応答

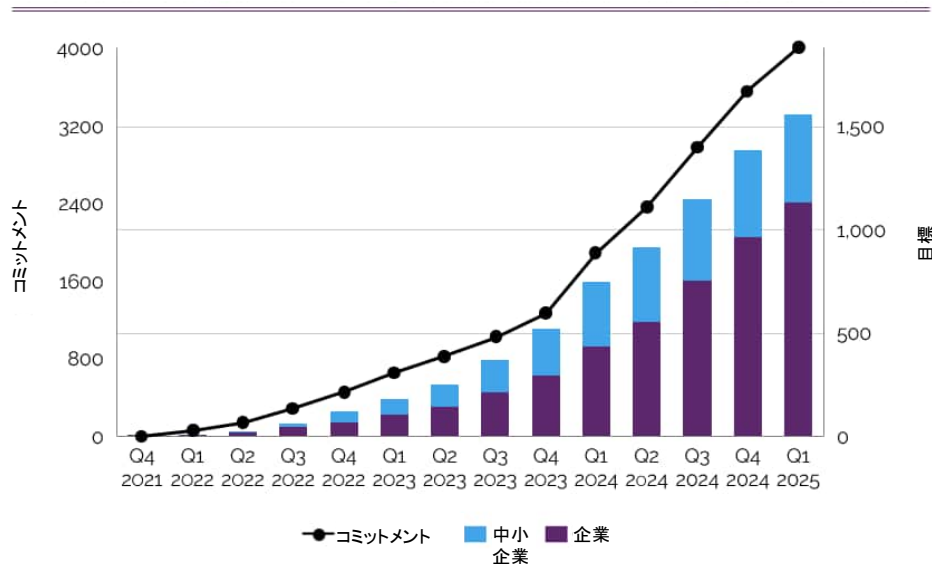
概要 | SBTi企業ネットゼロ基準の改定

SBTiの企業ネットゼロ基準 (Corporate Net-Zero Standard) は、2021年の発表以来、信頼性の高いネットゼロ目標の基準として広く認知されている。現在、**1,600超**の企業がネットゼロ目標の認定を受けている。

なぜ今、基準を改定するのか

- 1 SBTiの標準作業手順書(SOP)は、すべての基準を2~5年ごとに更新することを義務づけており、今回の改定はSOPに基づく**初の大規模改定***となる
- 2 企業ネットゼロ基準が最新の気候科学やベストプラクティスと整合しているか、ネットゼロ排出目標を実施し、達成する上での**主要な課題**に対応しているかを確認する

企業ネットゼロ基準の発表後に公表されたネットゼロ目標およびコミットメントの累計数



⁵ *企業ネットゼロ基準バージョン1には2022年と2023年に軽微な変更が加えられた。

現在の状況 | 企業ネットゼロ基準の改定に向けた進捗



プロジェクトが正式に始動:
ステークホルダーからのフ
ィードバックを評価



主要なテーマに対するステーク
ホルダーからのフィードバック:
ワークショップ、フォーカスグル
ープ、諮問グループとの協議を
通じて意見を収集

2024年
5月



調査研究とソートリーダーシップ:
スコープ3に関する論文、環境属
性証書に関するエビデンス、カー
ボンクレジットに関する統合報告
など

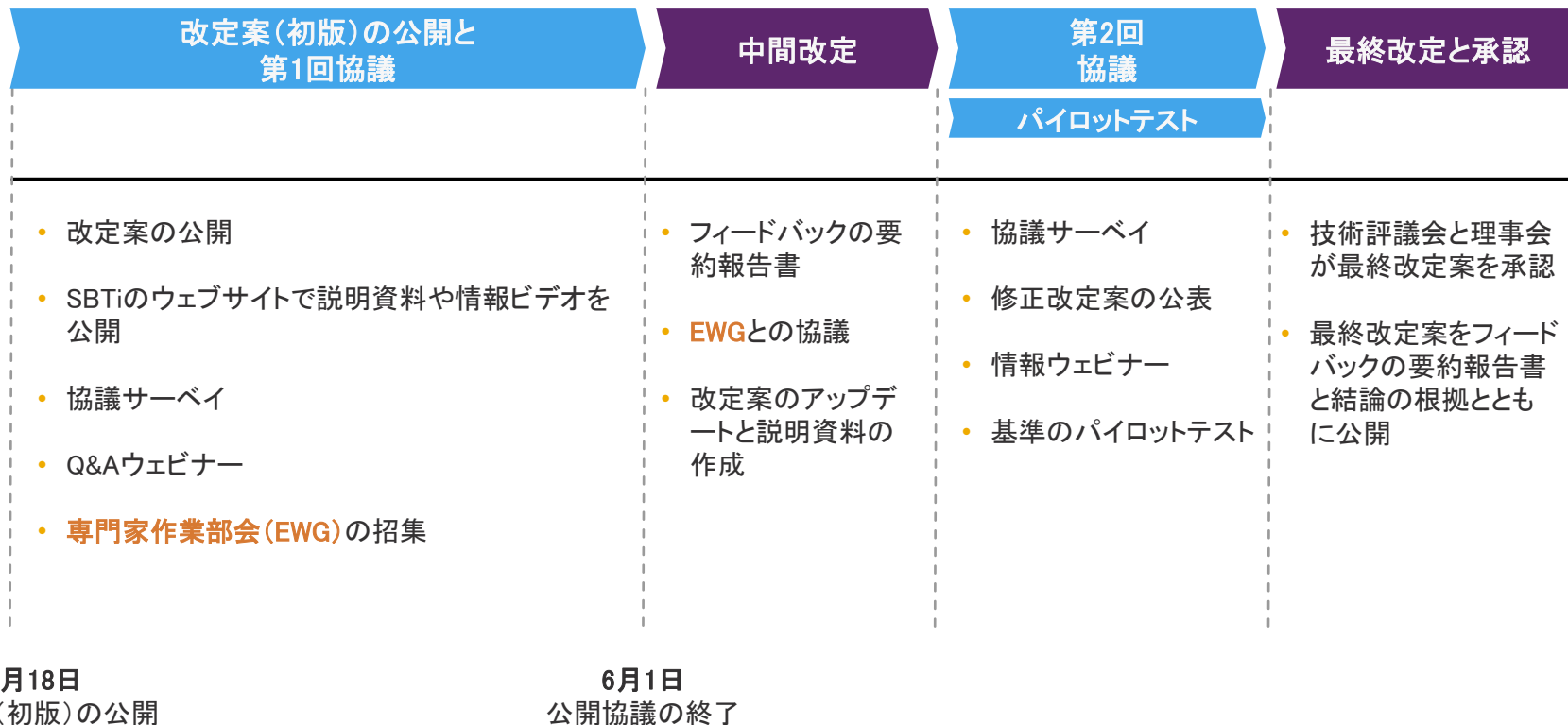


改定案(協議用ドラフト)の審査
と承認: SBTiの独立した技術評
議会が実施

2025年
3月

今後の予定 | 協議のスケジュール

スケジュールは変更の可能性あり



免責事項

本資料に掲載されているSBTiの基準に対するすべての変更案または修正案は暫定的なものであり、「SBTi基準策定のための標準作業手順書」に定められたプロセスに従って協議される。このプロセスには調査研究、公開協議、パイロットテスト、SBTi技術評議会による評価と承認、SBTi理事会による最終採択が含まれるが、これに限定されない。

© SBTi 2025



企業ネットゼロ基準V2 主な変更点

企業ネットゼロ基準V2.0の主な変更点

コミットメント

ネットゼロに対するコミットメントの公表（プロセス開始時）と移行計画の開示（目標設定後）

スコープ1

スコープ1とスコープ2の目標を別々に設定

スコープ1の総量削減法の改定
過去の実績を考慮

経路（パスウェイ）の改定
IPCC第6次評価報告書（AR6）と
IEAのネットゼロシナリオとの整合性を確保

スコープ2

スコープ2については2つの目標を設定

- ・ ロケーション基準
- ・ マーケット基準またはゼロカーボン電力

エネルギー属性証書（例：RECs）
の使用に関するガイダンスを明確化

スコープ3

排出の関連性に基づく目標のバウンダリを改定

整合性目標・指標の重視
（例：ネットゼロに整合した調達
の割合）

トレースが困難な排出については活動プールと間接的緩和を許容

除去

ネットゼロ目標年より前の除去の役割

最低限の耐久性要件

BVCM

バリューチェーンを超えた緩和（BVCM）活動に対して追加の認定を行う可能性

分類

企業規模や所在地に基づいて要件を調整する新たなシステム

検証サイクル

説明責任と認知の強化を目的としたエンド・ツー・エンドの枠組み

目標に向けた進捗状況の評価や目標の更新プロセスに関する明確なガイダンス

データ品質 と保証

データ品質の段階的な向上を促す新たな仕組み

一部の企業については限定的保証の取得を要件化



企業ネットゼロ基準V2 | 一般的な変更点

企業ネットゼロ基準V2.0 | 一般的な要求事項

企業分類の導入

現在

現在、SBTiの基準は一定規模の企業には地域を問わず、一律に適用されており、中小企業については専用の認定ルートが用意されている。

今後

企業を所在地や規模に基づいて区分するアプローチを導入する。企業分類に基づいて基準の要件や適用可能性を定めることで、公平性と実現可能性の向上を目指す。

一般的な要求事項 | 企業分類

	会社の規模				会社の所在地	
	従業員数	年間純売上高 (ドルまたはユーロ)	バランスシート (ドルまたはユーロ)	スコープ1・2 排出量 (tCO2e)	高・高中 ¹ 所得国	低・低中 ¹ 所得国
大規模 1つ以上の基準に該当	1,000人超	4億5000万超	該当なし	該当なし	A	A
中規模 2つ以上の基準に該当	250～1,000人	5,000万～ 4億5000万	2,500万超	該当なし	A	B*
小規模 2つ以上の基準に該当かつ CO2e基準値未滿	250人未滿	5,000万未滿	2,500万未滿	1万未滿	B*	B*

主な変更点

カテゴリ-A企業の場合、すべての基準が必須

カテゴリ-B企業の場合、一部の基準は任意

¹ 世界銀行の分類に基づく

* 中規模企業の場合、本社が低所得国または低中所得国にあり、かつ高所得国または高中所得国からの売上高が5,000万ドル(またはユーロ)未滿の場合、低所得国または低中所得国に所在すると見なす。

企業ネットゼロ基準V2.0 | 一般的な要求事項

コミットメントの表明義務

現在

企業はコミットメントレターをSBTiに提出し、コミットメントの日から24カ月以内に目標を提出して、審査を受ける。

今後

企業は、2050年までに排出量ネットゼロを目指すことを公に表明し、以下の期限内に科学に基づく目標を設定する。

A 12カ月

B 24カ月

企業ネットゼロ基準V2.0 | 一般的な要求事項

気候移行計画の開示

現在

企業は、設定した目標を実証するために気候移行計画を提出する必要はない。

今後

すべての企業は目標認定後、12カ月以内に移行計画を公表しなければならない。



A 必須

B 必須

企業ネットゼロ基準V2.0 | 一般的な要求事項

基準年の選択

現在

企業は、2015年までの任意の年を基準年として選択できる。また、GHGプロトコルが認める方法に従って、組織のバウンダリを設定しなければならない。

今後

企業は、初回認定から3年を超えない期間の中で基準年を選択する。組織のバウンダリを設定する際は、GHGプロトコルに基づくか、連結財務諸表と整合させる。

企業ネットゼロ基準V2.0 | 一般的な要求事項

データの品質と保証

現在

データの品質を高めるインセンティブがなく、温室効果ガス排出データの内容を保証する要件も存在しない。そのため、データを正確に測定し、進捗状況を一貫性をもって追跡することが難しい。

今後

現在の制約を認識した上で、データの品質を徐々に向上させるインセンティブを企業に提供する仕組みを作る。

活動レベルでの排出報告や保証要件の実現可能性を検討する。

A 必須

B 任意

企業ネットゼロ基準V2.0 | 一般的な要求事項

新たな審査サイクルの導入

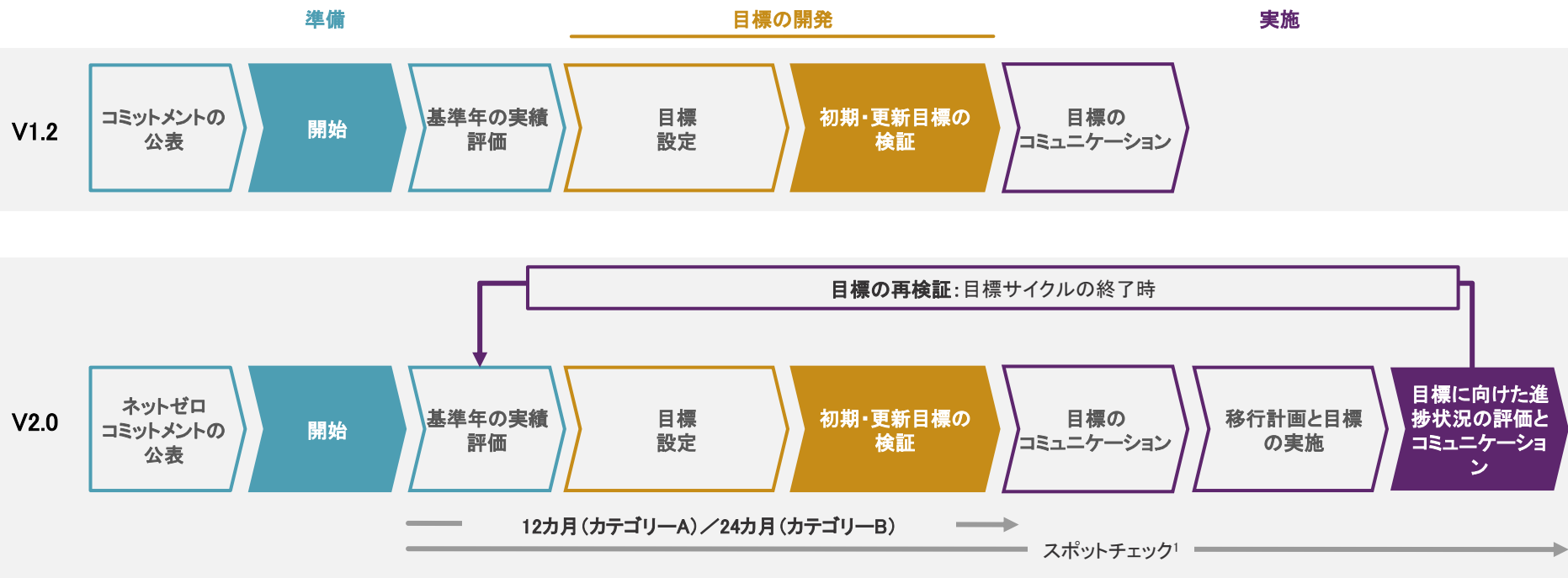
現在

目標の審査や更新のプロセスに、企業に継続的な改善を促すインセンティブが存在しない。

今後

エンド・ツー・エンドの包括的な審査モデルを導入し、初回の目標設定から更新までを網羅した明確なガイダンスを提供するとともに、目標が達成されなかったケースにも対応する。

目標に向けた進捗状況を検証・認定するエンド・ツー・エンドの枠組みを更新



¹⁹ 1.スポットチェックは、企業ネットゼロ基準V2の基準評価指標(CAI)への適合性を確認するため、目標サイクルの間、いつでも実行できる。

企業ネットゼロ基準V2.0 | 一般的な要求事項

クレーム(主張)

現在

企業はSBTiコミットメント、または短期目標やネットゼロ目標がSBTiの認定を受けたことについての主張を行うことができる(気温整合に関する目標の野心度を含む)。

今後

目標設定プロセスの各段階ごとに、企業が主張できる内容を明確化する。ただし、主張の内容は規制枠組みの変化に合わせる。

企業ネットゼロ基準V2.0 | 一般的な要求事項

バリューチェーンを超えた緩和(BVCM)

現在

バリューチェーンを超えた排出量の緩和に取り組み、現時点で継続する排出に対応することを企業に推奨する。

今後

所定の基準を満たしている場合、バリューチェーンを超えた緩和に取り組んでいる企業に追加の認定を提供する。



企業ネットゼロ基準V2 | 目標設定に関する改定

目標設定 | 全スコープにおける改定のポイント

テーマ

現在

今後



基礎となる経路

IPCC第5次評価報告書の経路に基づく排出削減ベンチマーク

IPCC第6次評価報告書の経路に基づく排出削減ベンチマーク



短期目標の期間

5～10年(統一的な目標年はなし)

5年間を標準とし、2030年、2035年等、マイルストーンとなる年に整合させることも可。



短期目標

スコープ1・2・3のすべて必須(スコープ3はGHGインベントリの40%以上の場合)。中小企業はスコープ3の目標設定は任意。

A すべてのスコープで必須

B スコープ1・2で必須



長期目標

すべてのスコープで必須

A スコープ1・2で必須(スコープ3の長期目標については協議中)

B 任意

スコープ1 | 改定のポイント

1 総量削減アプローチ(ACA)の改定¹

「参照年」を導入し、セクター横断的な排出削減の経路とIPCCのカーボンバジェットを整合させる。

参照年と企業が選択した基準年の排出ギャップに対応する手段として、次の2つの方法が提案されている。

1. オプション1 (炭素予算を維持した削減): 炭素予算(カーボンバジェット)を維持
2. オプション2 (線形の削減): すべての企業について、2050年までにネットゼロを達成するシナリオを確保

2 スコープ1の目標とスコープ2の目標は別個に設定しなければならない。

1.コンサルテーションプロセスでは、過去の排出実績を考慮するアプローチを含む、2つの選択肢が検討される。

スコープ2 | 改定のポイント

- 1 **スコープ2については、2種類の目標の設定を義務化**
 - 1) ロケーション基準の目標
 - 2) マーケット基準の目標またはゼロカーボン電力目標のいずれか

- 2 **スコープ2の緩和メカニズムの使用に関するガイダンスを拡充**

環境属性証書の使用、具体的にはエネルギーの消費と生産の時間的、空間的マッチングに対して、より厳格な規定を導入。

スコープ3 | 改定のポイント

- 1 目標のバウンダリの改定**
固定値は定めず、排出の関連性に基づいてバウンダリを設定する(67%のバウンダリの廃止)
- 2 整合性指標・目標の重視**
成果に重点を置き、整合性目標の設定指標および手法の活用を強化
- 3 より柔軟なアプローチによる進捗状況の実証**
活動プールレベル(例:供給地域(サプライ・シェッド))での介入を許容するとともに、トレースが難しい排出については、間接的な緩和(例:ブック&クレーム方式)の役割を認める

企業ネットゼロ基準V2.0 残余排出量への対応

- 1 ネットゼロ年における中和 (neutralization) の義務化**
スコープ3排出量の中和については、バリューチェーンのパートナーによる対応を許容
- 2 除去目標**
スコープ1の残余排出量については、中間除去目標を定めるか、追加的な排出削減または除去を行うことによって積極的に対応
- 3 最低限の耐久性要件**
耐久性の高い除去に徐々に移行するか、除去の耐久性を残余GHGに合わせるかのいずれかを要件化
- 4 品質基準**
信頼性の高い基準に準拠した除去が必要

企業ネットゼロ基準V2の策定プロセスへの参加方法



改定案の詳細を[ウェブサイト](#)で確認



[公開協議サーベイ](#)に参加
(6月1日まで)



4月9日に開催されるQ&A
ウェビナーに[登録](#)し、質問
を提出



2025年後半に
予定されているパイロットテ
ストに参加



情報を広め、フ
ィードバックの
共有を促進

ご静聴ありがとうございました

SBTiニュースレターに登録
企業ネットゼロ基準V2.0の最新情報を
配信中



さらなる情報収集と公開協議への参加
第1回公開協議は
2025年6月1日に終了予定





ありがとうございました